

図画工作研究部

I 研究主題

対話を通して、自分の思いを表現する図画工作科の指導の工夫

II 主題設定の理由

制作過程で、表現したことを見合ったり話し合ったりしながら、作品づくりをすることで、図画工作科の目標である「つくりだす喜び」を味わわせることができるであろうと考え、研究主題を『対話を通して、自分の思いを表現する図画工作科の指導の工夫』とし、研究を進めることにした。

VIの意識調査の結果から、図画工作科が好きで、感じたことや想像したことを作品にしようと意欲的に取り組んでいる児童が多いことが分かる。また、児童は表現することを楽しみながら、自分の想像を表そうとしていることも分かった。

しかし、表現方法がなかなか思い浮かばなかったり、工作や造形遊びは好きだけれど、絵を描くことは苦手と感じていたりする児童も数名いる。さらに、思いがあっても、形に表すことがうまくいかずに困ったり、自分のイメージしたことに自信が持てず、友達作品と類似したりする児童も見受けられる。

以上のことから、本研究部では、「①題材のねらいを存分に味わえる授業や場の設定を行うことで、自分の思いを積極的に表現できるのではないか ②制作の過程や鑑賞の場面の中で、図工の言語である『色・形・イメージ』をもとに対話を行うことで、友達作品のよさを感じ取り、自分の作品づくりに活かすことができるようになるのではないか」と仮説を立て、本主題を設定した。

III 研究の内容

1 研究の方向性

上の2つの仮説を実証する手立てを考え、授業の前に児童のアンケートを行った。その結果の分析を踏まえ、対話を通して『自分の思いを積極的に表現する力』と『友達の表現のよさを感じ取る力』を身につけさせるために、各学校で授業実践を行った。

(1) 6年生 造形遊び『白の世界』

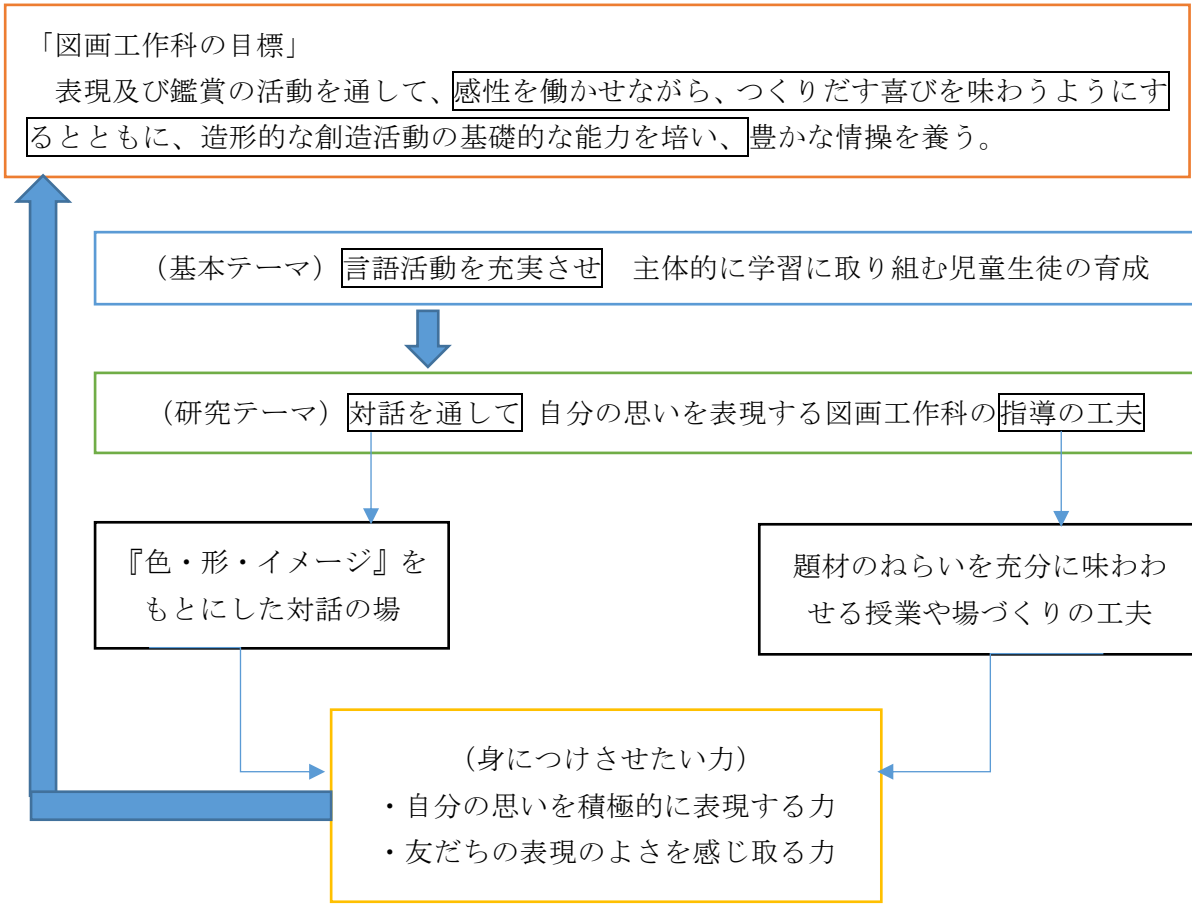
○材料との出会いの工夫 ○制作過程及び鑑賞における対話の導入

○技法や資料の提示、環境設定を意識した授業の展開

(2) 4年生 A 表現『まほうの力をもつ時計』

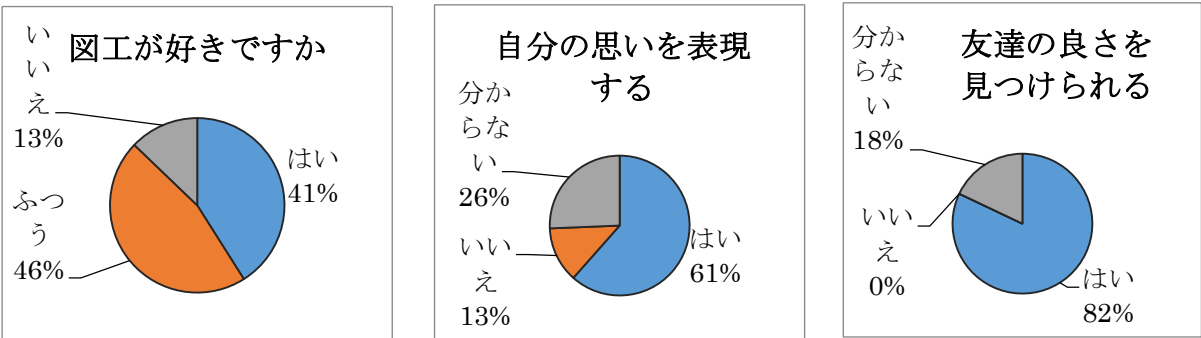
○題材との出会いの工夫 ○制作過程における対話の導入

○ICTを使って、言語活動を充実させた授業の展開



IV 実態把握

1 6年生の実態 (A校・B校)



「はい」の理由
・工作が好きだから ・楽しいから ・できた時に達成感を感じられるから など

「ふつう」の理由
・うまくいくと楽しいが、なかなか表現できないから ・絵を描くことが苦手だから など

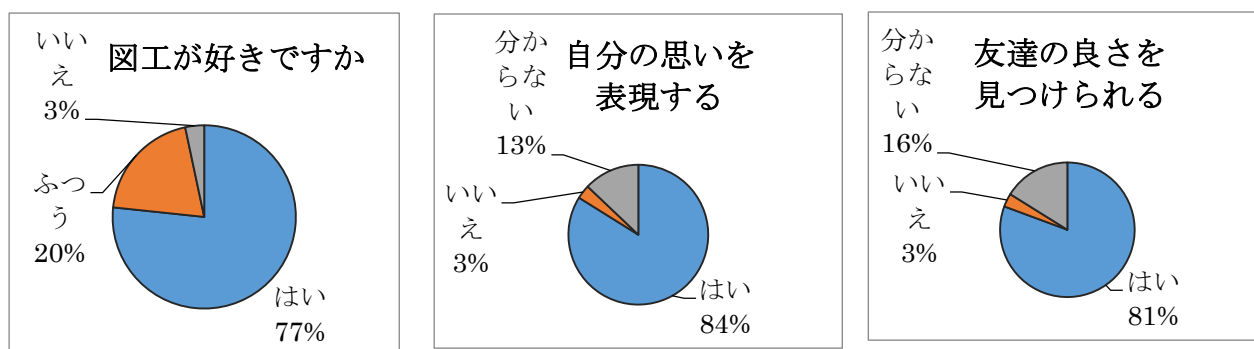
「いいえ」の理由
・描きたいものはあるが、表現できない など

上の意識調査の結果から、図画工作科が好きな児童が多く、感じたことや想像したことを作品にしようとする意欲的に取り組んでいることが分かった。また、何かを表現することに楽しみを感じ、自分が想像したことを表現しようとしていることも分かった。しかし、「ふつう」・

「いいえ」と答えた児童の理由としては、「なかなか表現方法が思い浮かばない」や「工作や造形遊びは好きだけれど、絵が苦手」などの回答が多く、課題が明らかになった。

そこで、A表現『思いのままに花』では、既習の技法（スパッタリング、ドリッピング、吹きながしなど）を使って、自分の表現したい花を紙の上に咲かせた。指に絵の具をつけてダイナミックに表現する児童や、絵の具の濃淡を生かして表現する児童など、それぞれの思いをこめた作品づくりをすることができた。また、造形遊び『〇〇で空間チェンジ』の学習を行った際には、友達と関わり合いながら大量の紙コップを思いのままに並べ、どの児童も造形遊びの楽しさを存分に味わうことができた。しかし、A表現『お気に入りの場所』の時には、「6年間過ごした思い出の場所の〇〇の瞬間を描きたい」という思いがあっても、絵に表すことがうまくいかず、困っている様子が見受けられた。また、少数ではあるが、友達の作品を見た後、自分の作品づくりに取り組むことで類似した作品になってしまい、自分の作品やイメージしたことに自信が持てない児童もいた。そこで、本題材や鑑賞の時間を通し、自分や他の作品のよさに気づき、互いのよさを認め合える機会を設けたいと考えた。

2 4年生の実態（C校・D校）



（事前アンケートの集計結果）

「はい」の理由 ・楽しいから ・思ったことができるから ・うまくできると嬉しいから
「ふつう」の理由 ・絵が苦手だから ・工作が苦手だから など
「いいえ」の理由 ・下手だから など

上の意識調査の結果から図画工作科が好きであると答える児童が多く、意欲的に作品づくりに取り組んでいること、児童の多くが自分の思いをのびのびと表現する楽しさを味わえていることが分かった。また、作品や作業がうまくできると嬉しいと感じ、図工の時間に達成感を味わっている児童も多いことも分かった。しかし、少数ではあるが、絵や工作が苦手など、特定の活動で苦手意識を持つ児童もいる。苦手な理由としては「思ったことがうまく表現できない」「アイデアが浮かばない」「うまくできているかわからない」などが挙げられた。

そこで、本研究の題材『まほうの力をもつ時計』では、友達との対話を通し、互いの作品のよさを認め合うことで、自分の思いを表現する楽しさを味わわせ、自信を持たせていきたい。また、アイデアが浮かばない児童のために、導入などで資料の提示方法を工夫すること、制作の過程で作品を見合う時間を意図的に設けることで、児童が生き生きと活動できるようにしたいと考えた。

Ⅴ 実践例

実践例① 6年生 造形遊び『白の世界』

(1) 目標

白い材料のよさを生かし、場所の特徴に合わせて、試したり見つけたりしながら、造形的な表現活動をする。


(2) 判定基準

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
関心・意欲・態度	諸感覚を働かせながら、材料や活動の場の特徴を感じ取り、進んで活動に取り組んでいる。	材料や活動の場の特徴を感じ取り、自分らしく表している。	材料や活動の場の特徴を自分らしく表そうとしている。
発想・構想の能力	材料の白さや校庭の場所の特徴を生かして、イメージをもったり、深めたりしている。	素材や形、手触りによる白さの違いを感じ取り、どんなことができるか、イメージを広げている。	素材や形、手触りによる白さの違いを感じ取っている。
創造的な技能	材料や場の特徴をもとに、多様な表現方法を工夫している。	材料や場の特徴をもとに、表現方法を工夫している。	材料を使って表現しようとしている。
鑑賞	友達の作品を見ながら、感じたことや考えたことを話し合い、自分のイメージを広げ、作品に活かしている。	友達の作品を見ながら、感じたことや考えたことを話し合い、自分のイメージを広げようとしている。	友達の作品を見ながら、感じたことや考えたことを話し合おうとしている。



(3) 準備 白い身近材料（養生シート、トイレットペーパー、障子紙、トレー等）

(4) 展開

	学習活動 予想される児童の具体的な姿「 」	指導の工夫 【共】：【共通事項に係る内容】	評価と内容 観点：評価規準【評価方法等】 ◆：C判定児童への手立て
事前	*題材名を知り、身近にある白いものを集める。	*興味をもって材料集めができるように、イメージをわかせる。	
導入 15分	1 本時の活動を知る。 これまで集めてきた白い材料の特徴を生かしながら表現方法を工夫して、校庭を『白の世界』にチェンジさせる活動である。	○活動の方向が理解できる「題材名」を提示するとともに、学習のねらいをしっかりとおさえる。 *白い材料のよさを生かす。 *場所の特徴に合わせて、表現方法を試したり見つけたりする。	◆：つくるものを決めて活動するのではなく、思いのまま活動してよいことを伝える。 ◆：材料に触れながら、活動の方法や具体的な生かし方を発想させる。

	<p>ることを確認する。</p> <p>2 白という言葉の持つイメージを広げたり、集めた材料を触ったり、透かしたり、色を比べたりしながら、材料の特徴や活動の方向性をつかむ。</p>	<p>○材料を触った時、光に透かした時など、児童から出ない場合には、教師が活動の視点を提示する。</p> <p>○集めた材料の形や白さの違いをもとにどんなことができるか、イメージを広げさせる。【共】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のばす ・丸める ・広げる ・つるす ・垂らす ・たたむ ・切る ・張る ・つなげる ・ねじる ・結ぶ ・破く ・巻く ・置く 	
--	--	---	---

<p>展開 ① 75分</p>	<p style="text-align: center;">提案1 白い材料の特徴を生かして、〇〇を白の世界に空間チェンジ！！</p> <p>3 集めた材料と場所の特徴を生かして活動する。 「～してみたいな。」 「これ、どうかな？」</p> <p>○表現方法が広がるように、材料を貼り合わせたり、連結したりする道具を用意しておく。</p> <p>○一人一人が自信をもって活動できるように、児童の思いや願いを共感的にとらえるようにする。</p> <p>○形や色などの造形的な特徴を基に、自分なりのイメージをもち、そのよさを認める。【共】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>この遊具とビニールをつなげてみたらどうかな？</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>紙テープを張り巡らしてみたら、クモの巣みたいになってきたよ。</p> </div>	<p>関材料や活動の場の特徴を感じ取り、自分らしく表そうとしている。 【表情・行動観察】</p> <p>◆：活動に躊躇している児童には、『どんなことができるかな』と問い、材料と場所の特徴からイメージを共に考え、意欲を引き出していく。</p> <p>発素材や形、手触りによる白さの違いを感じ取り、どんなことができるか、イメージを広げている。 【表情・行動観察・対話】</p> <p>◆：イメージが浮かばず思い悩んでいる児童には、何をしたいのか考えさせ、言葉に表しながら、イメージが持てるようにする。</p> <p>創材料や場の特徴をもとに、表現方法を工夫している。 【表情・行動観察・対話】</p> <p>◆：やりたいことはあるが、取組方法に悩んでいる児童には材料を示し、活動できるようにする。</p> <p>鑑友達の子供の作品を見ながら、感</p>
-------------------------	---	--

	<p>4 『みてみてタイム』 友だちの作品の中から表現のよさやおもしろさを見つけ、伝え合い、自分の考えやイメージを広げる。 「これ、いいね。」 「私も～しよう。」</p> <p>材料のちがいがおもしろいね。</p> 	<p>○一度集合して、それぞれの作品を見渡し、友達の表現のよさやおもしろさを見つけ、自分の作品のイメージを広げる。</p>  <p>形を工夫していて、とってもいいね！</p>	<p>じたことや考えたことを話し合い、自分のイメージを広げようとしている。 【行動観察・発表】</p> <p>◆：作品を見る視点を提示し自分の作品のイメージにつなげられるようにする。</p>
<p>展開② 35分</p>	<p>提案2 友達の作品の良さを見つけ、伝え合おう</p> <p>5 『鑑賞タイム』 自他の作品のよさを味わう。 「このグループの作品は、風が吹くとひらひらしてきれいだね。」 「このグループの作品は、光を通すと透けて、とてもきれいだね。」 「紙同士をうまくつなぎ合わせて、タワーのようにしているのが面白いね。」</p>	<p>○見てほしいポイントを画用紙に書き、掲示する。 ○前後半に分かれ、作品を見合う時間を設け、自分たちの作品のよさを紹介し合わせる。時間を決めて交代させる。 ○自分が感じた友達の作品のよさを付箋に書き、掲示された用紙に貼っていく。 ○色・形・イメージ・場所の視点を明確にしたうえで、鑑賞を行わせる。 ○材料や校庭の特徴を生かした活動を称賛する。</p>	<p>鑑 材料や場所のよさを味わい、感じたことや考えたことを話し合いながら、自分や友達の作品のよさや美しさを感じ取っている。 【行動観察・発表】</p> <p>◆：付箋に感想を書いて用紙に貼って見合うことで、作品を見る視点を明らかにする。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>6 本時の振り返りをする。</p>	<p>○今日の活動の振り返りや、友達のよさを発表させる。</p>	

(1) 目標

- ・自分なりの魔法の力をもつ時計を想像し、イメージすることができる。
- ・友達の作品の良さを認め、自分の作品にいかそうとする。

(2) 判定基準

	十分満足【A】	おおむね満足【B】	努力を要する【C】
関心・意欲・態度	『まほうの力をもつ時計』のイメージをどんどん広げている。	『まほうの力をもつ時計』をイメージしている。	『まほうの力をもつ時計』をイメージしようとしている。
発想・構想の能力	対話を通して、自分の『まほうの力をもつ時計』のイメージを深め、表現することができる。	自分なりの『まほうの力をもつ時計』をイメージし、表現することができる。	自分なりの『まほうの力をもつ時計』をイメージし、表現しようとしている。
創造的な技能	色使いや描き方を工夫し、自分なりの『まほうの力をもつ時計』を描くことができる。	自分なりの『まほうの力をもつ時計』を描くことができる。	自分なりの『まほうの力をもつ時計』を描こうとしている。
鑑賞の能力	友達の作品のイメージや表現のよさに気づき、自分の作品に活かしている。	友達の作品のイメージや表現のよさに気づき、自分の作品に活かそうとしている。	友達の作品のイメージや表現のよさに気づいている。

(3) 準備

- 時計がイメージできる資料（写真、音、実物など）書画カメラ、テレビ
- ワークシート、色鉛筆などの画材、バインダー

(4) 展開

	学習活動	指導の工夫	評価と内容
	予想される児童の具体的な姿「 」	【共】【共通事項に係る内容】	観点：評価規準【評価方法等】 ◆：C判定児童への手立て
事前	・資料やプリントを準備する。(写真、具体物など) ・大型テレビ、書画カメラ、ホワイトボード2台（資料掲示用）		

導入
15分

「まほうの力をもつ時計」

1 『まほうの力をもつ時計』のイメージをもち、自分の意見を発表する。
「～してみたいな。」
「～な魔法の時計があったらいいな。」

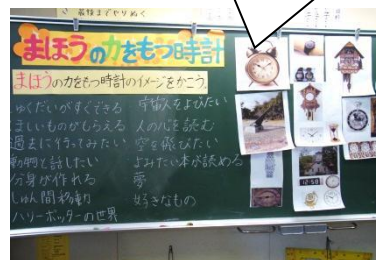
○イメージが出やすいように、物語風に写真や具体物を提示する。

関 『まほうの力を持つ時計』をイメージしている。
【行動観察・発表】
◆他の児童の発表を聞き、アイデアを黒板に書くことで、イメージを持てるようにする。

提案1 まほうの力をもつ時計のイメージをかこう。
『まほうの力をもつ時計』



イメージしやすいように写真や実物の時計を掲示。



25分

2 「まほうの力をもつ時計」のアイデアをかく。



発 自分なりの『まほうの力を持つ時計』をイメージし表現することができる。
◆アイデアを描くワークシートに言葉でも時計のイメージを書き、苦手な児童も自分の描きたい絵が描ける助けにする。

5分

3 どんな魔法をもった時計かペアで伝え合う。





○時計がもつ魔法の力について隣同士で伝え合わせる。

◆発表が苦手な児童も自分の考えを伝える機会を作り、お互いに聞きあうことで自分の作品に自信を持てるようにする。

「これは～ができる魔法の時計だよ。」
「すごいね。～はどうなっているの？」



「これは秘密基地の時計だよ。」
「楽しそうだね、何が出来るの？」
「時間を合わせると、未来に行けるんだよ。」

40分	<p>4 お互いの作品を見合う。 「～な形がいいね。」 「この色まねしたいな。」</p>	<p>○友達のイメージした魔法の世界を鑑賞し、よさを発見させる。よさはワークシートに記入させる。</p>	<p>鑑賞 友達のアイディアのよさを見つけられたか。 ◆ 友達のイメージを実際に見ることで、自分のアイデアを膨らませ、描き始めを描きやすいようにする。</p>
		<p>「この木のまほうの時計、かっこいい形だね。」 「まねしたいな。」 「色がおしゃれだね。」 「すごいなあ。」 「どんな魔法何だろう？」</p>	
	<p>5 お互いの作品のよさを発表し、もう一度『まほうの力をもつ時計』を描く。 「○○くんのアイデアがよかったな。」 「もうちょっとこうしてみようかな。」</p>	<p>○ 友達のがよかったところを発表させ合う。 ○ 発表のあった児童の作品を書画カメラで映しながら説明させる。 ○ もう一度、友達のいいアイデアを作品に活かすように助言する。</p>	<p>鑑賞 友達の作品のイメージや表現のよさに気づき、自分の作品に活かそうとしている。 ◆ 具体的によい場所を確認することで自分のアイデアを膨らませるきっかけをつくる。 ◆ 机間指導の時に個別で声をかける。</p>
		<p>「これは時間になると、好きなことができる時計です。 例えば、夜の10時になると誰とでも話せます。夢でみたことが正夢になります。」</p>	
			
まとめ 5分	<p>6 次回の学習内容を知る。</p>	<p>○ 次時の活動を伝える。</p>	

VI まとめと課題

① 6年生・造形遊び『白の世界』

○成果

事前準備では、家庭で用意することが難しい材料（障子紙や養生シート等）は教師が用意したが、他学級の児童や職員にも協力を呼びかけたことで、多くの種類の材料を集めることができた。その結果、題材との出会いの場面で、それらの材料を見せた際、「わあ〜」という歓声とともに、「やってみたい」「何をしよう」と児童同士が声をかけ合う様子が見られた。こうした材料の豊富さは、児童の一人一人の関心を高め、活動への意欲につながっていくことが分かった。

導入では、活動の提案の仕方を工夫した。児童が本時のねらいを的確につかめるよう、材料をどのように扱うか実際に提示する時間を設けた。提示するときは、光の透け方による違いや風に吹かれて動く様子を例示し、外で活動できることのよさを児童に体感させるようにした。また、実際に児童が材料を手にとることで、素材の特徴やよさを見つけ出すことができるようにした。そのため、最初に材料を選ぶ際、迷いなく活動に取り組む児童の姿が多かった。さらに、先行授業では、題材の「白」の色のよさを十分生かすことができず、白色ではなくても表現できる活動が多かった。そこで、本授業では、導入時に「白」の色からイメージするものや言葉を探す場面を取り入れた。（例えば、白→雲→ふわふわ）このように、「白」からイメージするものや言葉を見つけ出すことで、色の特徴を生かした活動につながった。

展開では、『みてみてタイム』を設け、友達の作品を活動の途中で見合うことで、1つの材料でも様々な表現方法があることを発見できた。また、素材と併せて、遊具や木々、光や風など、場所の特徴を生かして活動している班にも気づくことができ、その後の活動に生かすことができた。

鑑賞では、活動グループを前半・後半に分けて『鑑賞タイム』を設け、出店形式で発表させた。自分達の作品を紹介する際、作品のよさや工夫した点（先述の形・色・イメージ）を積極的に伝える児童の姿があちこちで見られた。聞き手は、作品に対する作者の思いを直接聞くことで、見るだけでは気づくことのできない、作品のよさを見出すことができた。また、作品への思いを聞いた後、その作品の世界に入り、イメージを体感することで、改めて作品のよさや面白さに気づく姿も見られた。

◆課題

本授業を展開するにあたり、約4か月前から多方面に呼びかけ、多くの材料を集めることができた。しかし、造形遊びに全学年が取り組むとなると、これだけ豊富な材料を集めるには、数か月の期間に渡り、学年や学級だけでなく、学校や地域に協力を求める必要が出てくる。また、家庭で用意するのが難しい材料は、教師が準備したため、その材料費も必要となってくる。さらに、材料が多く集まっても、長く保管できる場所の確保が必要である。

② 4年生・表現『まほうのちからをもつ時計』

○成果

題材が児童の実態に合っており、よりよい作品にしたいと意欲的に魔法の時計をイメー

ジしたり、自分の夢や願いを形にしたり、表現活動を十分楽しむことができた。

導入では、時計のイメージをさらに膨らませるため、古時計の実物を見せたり、珍しい形をした時計の写真など50種類ほどを用意して掲示したり工夫した。教室前面に常時掲示しておくことで、自分のイメージづくりの参考にいつでも見ることができ、表したいことを表現する際は手助けにもなった。

展開では、友達作品のよさを認め、自分の作品に活かせるよう、ワークシートを用意した。先行授業を終えて、ワークシートの書き出しを児童の実態に合わせる工夫をした結果、本授業では、自分のイメージした『まほうの力をもつ時計』を言葉に表すことによって、スケッチにつなげることができた。

鑑賞では、はじめに、自分の作品を隣の友達に説明することで、お互いの考えを認め合い、自分のイメージに自信をもたせるようにした。次に、対話をしながら全員の作品を自由に見合う時間を設けることで、見ただけでは分からない相手の表現のよさを知り、自分の作品づくりに活かせるよう工夫した。さらに、形・色・イメージについて、発想が豊かな児童の作品を数点選び、全員の前で発表させた。その際、拡大投影機を使って発表者の作品を分かりやすく示すことで、聞き手の意欲を高めることもできた。このように、自分の作品のよさや工夫した点を伝え合う活動を通し、自分のもつイメージをより広げ、自分の思いを表現することにつなげていくことができた。

◆課題

児童の思いを十分表現させたい気持ちと、単元計画との兼ね合いが大変難しいと感じた。時間をかけて丁寧に仕上げたいという児童の思いを受けとめながらも、時間のゴール設定をしなければならないからである。今後は、指導時数の中で、いかに児童が自分の思いを表現できるようになるか、具体的な指導の手立てや支援を工夫することが課題である。

その他として、資料の準備に、時間やコストがかかることがあげられる。これは、授業で使った資料を題材別に保管し、経年で使用できるようにするなど、校内の図工部を中心とした組織的な取組によって、改善できるであろう。各校において、学年を超えて教材を共有し、いつでも誰でも指導できるような環境づくりが必要である。

研究テーマのまとめ 対話を通して、自分の思いを表現する図画工作科の指導の工夫
本研究での成果と振り返りを踏まえ、今後も次の点に努めていきたい。

- ①「題材のねらいを存分に味わえる授業や場の設定を行うことで、自分の思いを積極的に表現できるのではないか（仮説）」については、造形遊びでも表現でも、資料や材料を豊富に用意することが大変効果的であった。そこで、場の設定を工夫し、児童の意欲をより高め、自分の思いを進んで表現できるようにしていく。
- ②「制作の過程や鑑賞の場面の中で、図工の言語である『色・形・イメージ』をもとに対話を行うことで、友達作品のよさを感じ取り、自分の作品づくりに活かすことができるようになるのではないか（仮説）」については、制作途中で鑑賞の時間を設けたり、ペア学習で対話を取り入れたりすることによって、友達作品のよさを感じ取り、お互いの考えを認め合うことができた。そこで、今後も、制作過程の中で意図的に対話の時間を設けたり、『色・形・イメージ』といった鑑賞の視点をワークシートで与えたりしながら、友達表現のよさを感じ取らせ、自分の作品に生かすようにしていく。

本研究を通して、自らの図画工作科の授業を見つめ直すことができた。また、対話を通じた活動や鑑賞を取り入れた実践をすることができ、言語活動の充実をより一層図ることもできた。今後も、自分の思いを楽しく表現しながら、対話を通して互いに学びを深められるよう、日々研修に励み、よりよい図画工作科の授業を児童と共に創造していきたい。そして、造形遊びにおける評価の在り方も研究していきたい。